＜巻頭言＞

WHO 国際疾病分類第 11 回改訂（ICD-11）および ICF，ICHI の導入に向けて

水島洋

国立保健医療科学院研究情報支援研究センター長

Toward the implementation of WHO 11th revision of the International Classification of Diseases (ICD-11), ICF and ICHI

Hiroshi Mizushima

Director, Center for Public Health Informatics, National Institute of Public Health

WHO疾病統計分類（ICD）は，1900年に作られてから，世界的な疾病の動向を把握するための国際基準として大変重要な役割を果たしてきた．わが国においても人口動態統計や患者調査などの公的統計に使用されているほか，医療機関における診療録の管理などでも活用されている．公衆衛生領域における統計の基本となってきたことは言うまでもない．

現在用いられている第10版（ICD-10）は，随時新しい知見を入れて小規模な改正を行ってきた．しかし，これまでの約10年間，大きな改訂をすることなく使われてきたが，2007年から第11版（ICD-11）への改訂準備がすすめられ，2018年 6 月にWHOにおいてICD-11が公表された．

今回は，約30年ぶりとなる大規模改訂になったが，それぞれの領域における新しい医学知識が盛り込まれるとともに，医療安全や伝統医学などの新しい分野も加えられた．また，エクステンションコードを用いた修飾などの新しいしくみや情報学的な考え方，技術も取り入れられており，これからICDは電子的に提供することが基本となる．

本特集では，ICD-11への改訂に関して医学の各方面からの解説に加え，診療情報管理や医療情報の観点からの解説を含めて，改訂と国内導入への道筋について展望する．

なお，ICD-11及びICHIにかかる用語は仮訳である．